

平成27年
盛夏号
(2015.8)

発行責任者
鈴木勇治
TEL 244-7308
FAX 244-7310
仙台市太白区鈎取本町1丁目14-32

こあいさつ

常日ごろから、私、鈴木勇治の活動に対しまして、あたかいご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

皆様からの叱咤激励を大きな力として6期目の活動にしっかり取り組んで参ります。

今年度は一部の事業は残るもののが仙台市震災復興計画の仕上げの年となり被災された方々の一日も早い生活再建と復興の先を見据えた「新生仙台」のまちづくりにむけ一層の努力を重ねて参ります。特に急速に進行している少子高齢化、さらにはそれに伴う人口減少が経済福祉、地域コミュニティなど社会全般にわたって影響を及ぼし、これから市政運営においても重要な課題となつて参ります。

私はこれを克服し市民の皆様が安心して住み続けるための手立てとしては、こども子育て支援策、高齢化対策、そして次代を担う子どもたちの教育政策について強力に拡充を進める必要があると考えます。これからも「まごころ市政」をモットーに、初心を忘れず市政活動にまい進して参りますので、これまで同様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願ひ申し上げます。

（問）事前の相談、後の子供達へのフォロー、いりましたように担任の対応、あと謝罪の会をやるなど、学校としても対応はある程度はされてしましましたものの、その認識が非常に軽微に受けとりましたものの、その認識が非常に軽微に受けとめていた面もあって、教育委員会に報告がなかつたということもございまして、私どもも残念ながら自死された後に報告を受けて、その後の対応となつたものでございます。

かにございます。学校の対応として今お話しがありましたように担任の対応、あと謝罪の会をやるなど、学校としても対応はある程度はされてしましましたが、学校ととても対応はある程度はされてしまつたものの、その認識が非常に軽微に受けとりましたものの、その認識が非常に軽微に受けとめていた面もあって、教育委員会に報告がなかつたということもございまして、私どもも残念ながら自死された後に報告を受けて、その後の対応となつたものでございます。

（問）事前の相談、後の子供達へのフォロー、いりましたように担任の対応と一体となつておこなっていく体制、これが必要です、どう教えているのか？

（答弁）教育長 おっしゃられている面が本当にござります。その一番の認識は、担任がこの継続性という認識に対して、また、このかいらい等について、いじめというのは必ずしも物理的な強いじめだけではなくて、心理的な言葉によるじわじわとするようなじめも当然いじめで、その子供さんへのアフターケアといいますかフォローについても当然気を配つていかなければならないのですが、残念ながらこの事例が担任がその後、学年として情報を共有するとか、あと管理職、教頭、校長に対して問題意識を持つて報告をしていくという点では我々が今まで教育委員会としているやさきに、こういう悲しい事案があつたことに対する対しては、本当に私どもも残念でなりません。

（問）一年数ヶ月以上も前の事案である、保護者

（問）自死に至った背景とか、そういうったものといふのはお知らせするという、そういうったことは必要

（問）警察との連携はどうなつていてるのか？

（答弁）教育相談課長 警察につきましては、事案直後、警察のほうも現場検証をしまして、まず、自死だというふうな、そういう結果については私ども報告を受けました。それ以外の部分については、警察からの情報というものは今のところないんですけども。

（問）自死に至った背景とか、そういうったものといふのはお知らせするという、そういうったことは必要

あなたの声をお聞かせください！
電話一本出前市政

要りた見・ご原動力をみたから活動じと話をしてみたののと話を是非ご一報下さい。皆議員ゆうじと話を聞いてみたいとお待ちいたしております。

仙台市太白区鈎取本町1-14-32
TEL 244-7308
仙台市太白区向山1-18-8
TEL 223-9393



なかつたんですか？

（答弁）教育相談課長 こちらで把握した情報については、警察のほうには情報として流しております。

（問）これまで各学校でも教育委員会でも、これまでの種々の経験が生かされてない、どう捉えているのか？

（答弁）教育長 今、委員おっしゃれた面も確

一年以上も前の事案についてについて情報がここに至つて明らかにされたのであるが、なぜ今この時期になつたのか、早い時期での発表ができなかつたのか、学校内での子供たちに対する説明をどうするのか、学校と教育委員会との連携を初期の段階から取るべきだったのではないかなど疑惑が残ります。今後、新任期の中でも明らかにすべき問題と考えます。



鈴木ゆうじ ほっとライン

市政活動報告

議会の動向



（問）短期間で6回もあった。学校から教育委員会に対する報告相談もなかつたのはなぜか？

（答弁）教育局理事 このたびの事案でございまます。お手元のほうの参考資料」というものをちょっととごらんいただきたいと思うんでございますが、ここに専門委員会からの答申がございます。おめくりいただきまして、2ページ目をごらんいただきたいと思うんですけど、2ページ目の（3）のところに、中学校入学後から自死行為に至る日までということで、ただいま御質問のございまして6回保護者のほうから相談があつたということについてでございますが、ここ専門委員会のほうで、五月、六月、七月というふうに、結局五月の段階で1回相談があつて、学校としては関係生徒を集めて謝罪の会を行つて、それで一度終わつたというふうな形で理解をしていたところ、六月になってまた保護者のほうから実はこういったことがありますんだというふうな相談があつて、その都度対応するというふうなことで、合計いたしますと六回の相談を受けていたということになりますけれども、それ以外の部分については担任のほうは正確な数は覚えていないというふうに伺っております。捉え方としては、担任は軽微のものだというふうな捉え方をしていました。